

学会便り

創立70周年記念式典開催報告

Report on 70th anniversary of foundation of Japan Institute of Light Metals

廣澤 渉一

Shoichi HIROSAWA

長引く新型コロナウイルスの影響のもと、2021年11月12日にオンラインにて、一般社団法人軽金属学会創立70周年記念式典が挙行された。パッヘルベルのカノンがゆったりと流れる中、150名ほどのオンライン参加者を前に、司会の山口恵太郎副会長が開会を宣言し、続いて熊井真次会長から挨拶があった。熊井会長は手製のボードを用いながら、本学会が今後目指すべき姿を「啓金属学会」、「携金属学会」、「敬金属学会」、「継金属学会」、「恵金属学会」、「慶金属学会」などと次々に示され、創立100周年に向けたさらなる取り組みについての抱負を語られた(図1)。

続いて、経済産業省製造産業局金属課金属技術室長の大竹真貴氏から祝辞を賜り、軽金属に関する学術や技術の進展によって、我が国の軽金属産業がさらに活気づくことを期待している旨が述べられた。さらに、録画映像となったが、公益社団法人日本金属学会 中野 貴由 会長からは、両学会がこれまでに築いてきた連携をさらに強化し、材料系学協会が果たすべき役割を全うするとの祝辞を頂いた。また、一般社団法人日本鉄鋼協会会長の小野山 修平 氏からは、両学会が連携、情報交換して技術力を向上させ、厳しさを増す国際競争に勝ち抜きたいとの祝辞を頂いた。紙面を借りて、祝辞を賜った3団体のリーダー、関係者の方々に心より御礼申し上げる。

休憩をはさんだ後、創立70周年記念表彰式が、廣澤70周年記念事業実行委員会記念式典グループ長の司会で挙行された。始めに、永年にわたって本学会に貢献した会員ならびに団体に贈られる70周年記念感謝状が画面に映し出され、軽金属セミナー講師を務めた浅見 重則(軽金属学会 技術参与)、伊藤 吾朗(茨城大学 名誉教授)、里 達雄(東京工業大学 名誉教授)、関 史江(元 東京大学)、手塚 裕康(元 東京工業大学)、廣澤 渉一(横浜国立大学)、戸次 洋一郎(株式会社UACJ)、吉田 英雄(軽金属学会 技術参与、超々ジュラルミン研究所代表)各氏、ならびに公益財団法人軽金属奨学会、株式会社アーレスティ、株式会社日刊工業新聞社の3団体に贈呈された。

続いて、70周年記念維持会員運営功労賞の表彰が行われ、維持会員を代表して理事を務め、本学会の委員会運営に尽力した足高 善也(東洋アルミニウム株式会社)、阿見 秀一(元三協立山株式会社)、神戸 洋史(元日産自動車株式会社)、橋内 透(元ヤマハ発動機株式会社)、中沢 靖(株式会社本田技術研究所)各氏に対して、多大な貢献が称えられた。さらに、2021年3月末現在満55歳以上かつ入会25年以上の会員に贈られる70周年記念功労賞では、画面いっぱい181名の受賞者

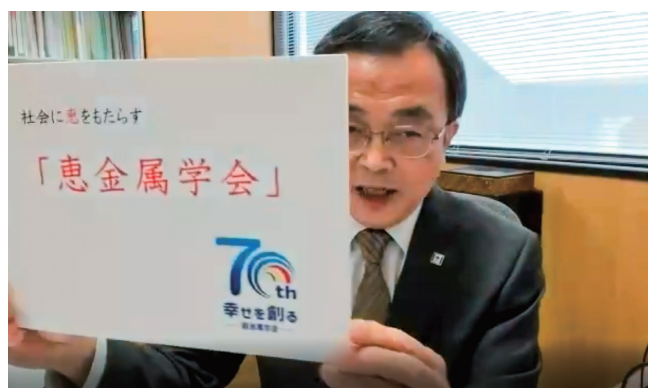


図1 熊井会長挨拶

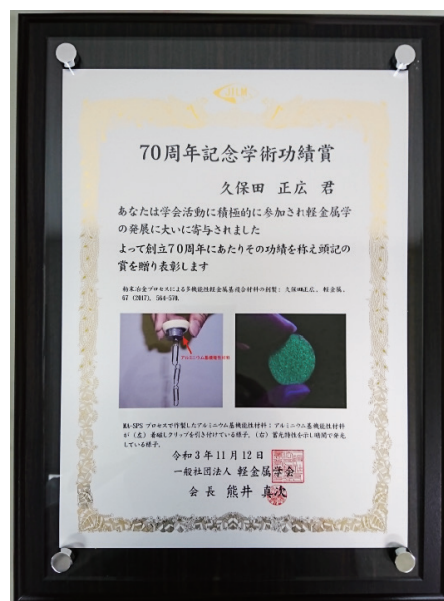


図2 70周年記念学術功績賞大型楯

の名前が映し出され、五十音順により代表して相浦 直氏(元株式会社神戸製鋼所)に賞状が授与された。

さらに、この10年間に精力的に研究し、その成果を軽金属およびMaterials Transactionsに発表した会員に贈られる70周年記念学術功績賞の表彰が行われ、小椋 智(大阪大学)、樫原 恵蔵(和歌山工業高等専門学校)、久保田 正広(日本大学)、熊井 真次(東京工業大学)、才川 清二(富山大学)、田村 洋介(千葉工業大学)、半谷 禎彦(群馬大学)、堀川 敬太郎(大阪大学)、吉田 英雄(超々ジュラルミン研究所)、吉野 路英



図3 最優秀希望の星賞ブック型楯

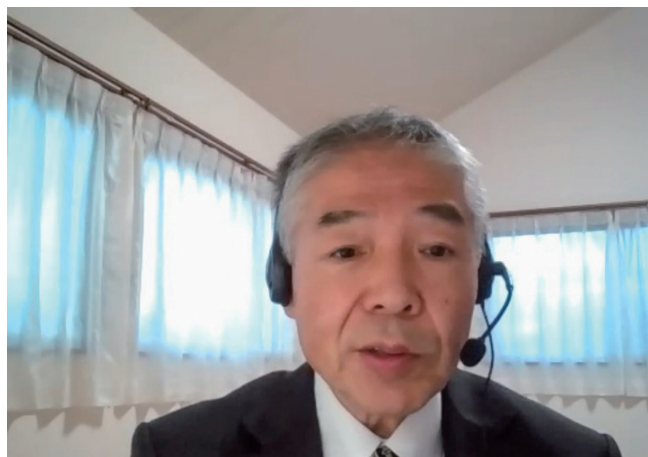


図4 伊藤 吾朗 茨城大学名誉教授講演

(三菱アルミニウム株式会社) 各氏に表彰楯が授与された。代表して久保田 正広, 堀川 敬太郎 両氏からともに研究室の学生への感謝と, 引き続き精力的に学会活動に関与していく旨の謝辞があった。なお, 今回授与された表彰楯は350×260 mmの大型木製で, 賞状部分は受賞者一人一人に特注でデザインされたものである(図2)。受賞決定後, 論文で使用した図表の中から「これぞという一枚」を選んでいただき, 200×275 mmサイズのアリミニウムプレートにレジスト印刷とカラー印刷を施してカラフルに仕上げた, 世界に一つしかないものである。

そして最後に, 希望の星賞グランドチャンピオンシップ最優秀希望の星賞の表彰が行われ, 澤谷 拓馬 (三菱アルミニウム株式会社), 中田 大貴 (長岡技術科学大学), 増田 高大 (横浜国立大学), 村松 賢治 (東洋アルミニウム株式会社), 水谷 学 (住友電気工業株式会社), 成田 麻未 (名古屋工業大学), 山田 隆一 (山梨大学) 各氏に表彰楯が授与された(図3)。本賞は, 2008~2017年度の軽金属希望の星賞受賞者計308名の内, 現在も本学会に所属して軽金属やMaterials Transactions誌に論文を掲載し, 春秋の講演大会で講演発表するなど軽金属分野で活躍している研究者, 技術者に贈られるもので, 上記の7名が選出された。挨拶した各氏の言葉からは当初の期待通りに希望の星として輝いている様子がうかがえ, 軽金属

のさらなる発展を牽引していく意気込みにあふれていた。

その後, さらに休憩をはさんで, 元本学会会長伊藤 吾朗 茨城大学名誉教授による記念講演があった(図4)。司会の戸田 裕之 副会長の紹介を受け, 「軽金属学会70年を支えた強み(私見)」という演題で講演された伊藤先生は, 軽金属学会の特徴として

- ・ 温かい (at home な) 学会
- ・ 褒めてもらえる学会
- ・ 産学連携
- ・ 論理・サイエンスを重視する学会
- ・ 中堅・若手の意見に耳を傾ける学会

を挙げられ, これまでの経験を交えながら一つ一つその理由を説明された。特に, ご自分の学生時代や若手大学教員時代に, 本学会の講演大会や研究部会, 懇親会などを通して著名な先生, 企業研究者から受けたアドバイスは非常に貴重であったとお話は, 人と人とのつながりがあって初めて学会活動が成立する, 学会本来の価値を示唆するものであった。

そして17:30からは, 4つのブレイクアウトルームに分かれてオンライン懇談会が開催された。会長をはじめ, 各賞受賞者やオンライン参加者と画面越しに親睦を深めることができ, 多くの制約がある中でのオンラインでの記念式典の開催が成功裏に終わったことを実感した。